

◆ 事務局

「令和6年度建築士定期講習」の日程について

令和3(2021)年度に受講された方は今年度が受講年度です。  
今年度から申込方法が変わりました。①建築技術教育普及センターのホームページからインターネットで直接お申込み  
②紙の申請書(建築技術教育普及センターのホームページからダウンロード)を富山県建築士会へ郵送 のいずれかの方法でお申し込みください。3年前に普及センターの建築士定期講習を受講された方には、年度初めに普及センターから案内が届きます。

会場コード	日程	会場	講義	定員
3B-01	6月11日(火)	富山産業展示館 (テクノホール)東館	講師	120
3B-02	6月25日(火)	富山産業展示館 (テクノホール)東館	講師	120
3B-03	7月11日(木)	砺波まなび交流館	DVD	80
3B-04	10月3日(木)	高岡文化ホール	DVD	80
未定	令和6年11月～ 令和7年3月	富山市(予定)	未定	未定

時間:9:20～17:30

受講料:12,980円(消費税・テキスト含む)

申込先:建築士会事務局 平日9:00～17:00

問合せ先:建築士会事務局 担当:佐藤

※詳細は同封のチラシをご覧ください。

建築関係技術者のための「監理技術者講習」  
(DVD講習)のスケジュール

回	開催日
①	令和6年 4月26日(金)
②	令和6年 5月31日(金)
③	令和6年 7月30日(火)
④	令和6年 9月26日(木)
⑤	令和6年 11月19日(火)
⑥	令和7年 3月18日(火)

会場:富山県建築設計会館3階

時間:受付9:00開始 講習+試験9:30～17:25

※詳細は同封のチラシをご覧ください。

◆ JIA北陸支部富山地域会

「2024年度通常総会記念講演会」のご案内

日時:令和5年4月20日(土)16:00～17:30

会場:富山国際会議場2階多目的会議室201、202  
(富山市大手町1-2)

講師:畠山 健介氏 元プロラグビー選手

演題:『ラグビーを通じて学んだこと』-未来への役割と責任-

建築CPD:2単位の予定

(申し込みの際にCPD番号をお知らせください)

定員:100名(どなたでも参加できます)

参加費:無料

問合せ先:JIA北陸支部富山地域会

担当:酒井(鈴木一級建築士事務所)

Email:sakai-takeshi@suzuki-ken.jp FAX:076-421-9118

(申込み方法、詳細情報はJIA北陸支部ホームページをご覧ください。)

## 交流委員会 令和5年度「能登震災関連勉強会と交流会」事業報告

(公社) 富山県建築士会交流委員会 & 新建築家技術者集団富山支部 共催

### □ 勉強会

日 時: 令和6年3月16日(土) 13:45~16:00

会 場: ボルファートとやま 4F 瑪瑙(めのう)の間

内 容: 能登半島災害被災状況、被災者の声(話手: 新建築家技術者集団富山支部 富樫 豊氏)  
: 液状化とは、液状化対策工事ハイスピード工法 S-type とは、制振装置 BOSHIN  
(話手: 株式会社 谷口 関原 博光氏)

参加人数: 42名(建築士会: 13名、新建: 14名、一般3名、Zoom(士会、新建): 12名)

### □ 交流会

日 時: 令和6年3月16日(土) 17:00~

会 場: とやま自遊館 レストランシャトー

参加人数: 17名(建築士会: 5名、新建: 10名、一般: 2名)

(新建会員の多くの方は建築士会員を兼ねています)



今年度の企画は当初の予定と変更になりましたが、建築士会員兼新建の会員である交流委員等の協力により、建築士会と新建の共催にて能登地震関連の勉強会(Zoomにより会場に出来ない新建の東京等の会員や士会員も参加)を実施し、交流会にて意見交換を行いました。

### (公社) 富山県建築士会交流委員会について

「建築関係団体との交流会を通して、コラボレーションなどの可能性を試行する」目的で、前委員長が平成31年に伝統的建築技術と一般建築のコラボレーション(パネルディスカッション: 左官・大工・銘木・手漉き和紙、交流会)、令和元年にコラボレーション2(木彫・城端しけ絹・木製建具、交流会)を実施している。令和2年に自分が引き継いで以降、見学会を予定していたがコロナ蔓延により令和2年~3年は事業が実施できず、令和4年に建築士会70周年記念事業として文化講演会に合わせてSCOPとやまの見学会を実施しています。



←交流委員会  
水葉委員長



新建築家技術者集団  
池谷 支部長



### 新建築家技術者集団富山支部について

新建築家技術者集団(新建)は1970年に創立以来50年の活動を通して、住む人、使う人の立場に立つ「生活派の建築創造、住民派のまちづくり」を掲げてきた集団です。会員は建築家、建築技術者、大学研究者、自治体職員、コンサルタントなど建築やまちづくりにたずさわる人々を中心に、全国で25の支部に所属して活動しています。富山支部の機関紙 ゆるみ 200号発刊。

能登震災の被災状況については、新建の富樫 豊氏（\*下記プロフィール）が震災直後に被災地に入り、富山県内：県湾岸西域で震度5強、県東部で震度5弱（東蓮町、吉久、伏木、氷見、姿）および石川県内：M7クラスで強震（門前と志賀で震度7）（河北；内灘、中能登；七尾、穴水、志賀、奥能登；輪島門前、輪島、珠洲）を地震被害報告（速報会）にて建築専門、社会学系、住民の方々の視点と声を盛り込み、地震、地盤、建築被害、対策の4部で現地写真をスクリーンに映しながら詳細説明・解説をしていただいた。自分も伏木錦町、氷見にて応急危険度判定を実施し、志賀町に調査に行った状況を思い出し地震の恐ろしさを改めて痛感しました。



司会の上梅沢氏、今城氏



富樫氏と被災地写真



\*富樫氏は地震工学を専門とし、建築学会災害研究の一環として地震の度に初動調査と称しすぐ現地視察を実施。地域貢献の先駆けとして名古屋地盤図作成に尽力。建築学会で支部幹事・支部事業委員長・災害連絡部会長を歴任され、災害調査（1981年56豪雪：美濃・飛騨）、地震災害（1978年伊豆大島近海地震、1995年兵庫県南部地震、2004年中越地震、2007年能登半島地震、2016年熊本地震、2023年能登半島地震；珠洲市）等の調査実績を通じて・講演会・著書多数、教育・研究活動・学術広域活動等多岐にわたる活躍をされています。

液状化とは、液状化対策工事ハイスピード工法 S - t y p e、制振装置 B O S H I N について、メーカー代理店の関原氏に、ご自身の自宅の被害も併せて映像を見ながら詳細な解説をしていただきました。説明があった砕石工法は対策の一つとして活発な質疑応答も交わされました。



関原氏



山本 前委員長

今回、勉強会の参加者は能登地震の影響により被災した、県内の高岡市・氷見市の応急危険度判定、被災住宅の住宅相談に携わった人が多く、勉強会の内容に強い関心を持ち真剣に聞き、積極的な質疑をしていました。勉強会の後の交流会では久しぶりに会う方々と有意義な意見交換が実施できました。今後も各種団体と勉強会・交流会を計画推進して参ります。最後になりましたが、今回の地震で被災された方々が一日も早く元通りの生活に戻れることをご祈念いたします。皆さま、今後ともよろしく願います。

# かぐてんぼう隊高岡支部活動報告

富山支部さんがこれまで活動されてきた「かぐてんぼう隊とやま」の活動を富山県からの助成を受け、県内全域に広げることになり、2023年3月に各支部向けの説明会を受けた。事業募集する地域は自主防災組織がある自治会が良いということ、募集に関してはやはり地縁関係を利用すべきとの助言があったため、私の地元の吉久地区で事業募集をすることとした。吉久連合防災会に今回の事業趣旨を伝えて事業への協力の同意を得ることができた。2023年12月に再度事業に関する詳細な説明を受けたのちにサンプルケースとして実際に吉久の高齢者宅の家具の固定作業を行なった。その2週間後に能登半島地震があったため、家の方には感謝され、この事業の意義を実感させられることとなった。



2024年2月25日に応募のあった3件の家の下見を行い、3月2日に家具の固定作業に向かった。食器棚の固定と扉に耐震ラッチを取り付けるなどの作業となった。あらかじめ作成した木製の固定造作材を現地で加工したりする作業はあったが、概ね順調に進み、午前中で作業を終えることができた。固定作業を行なった家は全て高齢者女性の一人暮らしだったため、固定作業を終えた後はみなさん安心されていたことが印象的だった。固定作業と同時に作業風景の写真撮影、実施箇所の撮影などの事務作業もあるので、時間管理は重要だ。



## 家具固定実施

3月2日は雪が降る寒い日となった。一件目のお宅での作業はまだ不慣れだったため、少し時間がかかったが、2件目から少しずつ作業もスムーズになった。日頃から気心の知れたメンバーでの作業だったため、共同作業も順調にできたように思う。

参加人数

5名



### サンプル金具展示ケース

固定用金具などを展示するためのケースも製作しました。様々な固定グッズも揃えました。



### 壁下地実物大模型とケース

壁下地の実物大の模型とこれを収納するケースも製作しました。



### 加振模型

地震時の家具の転倒を実演するための模型と収納ケースも製作しました。

## 地震後だから

地震を経験して多くの方が家具固定の必要性を実感したと思う。この事業の意義はますます高まったと思えるので広域での継続が求められるだろうと思った。課題は固定作業について建築士のスキルだけでは対応できる作業範囲に限りがあることだ。大工工事が必要な場面があった時に対応できるメンバーの確保について検討が必要だと思った。

報告 | 高岡支部・|林 芳宏|